事業名	【継続】 特定健康診査等事業				
当初予算額	財源内訳				（単位：千円）
	国費	県費	地方債	その他	一般財源
8,209万7		2,705万8		1	5,503万8
事業期間	平成２０年度～			総事業費	

【事業目的】

40歳から74歳までの国民健康保険加入者を対象に、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した健康診査、保健指導を実施することで、生活習慣病を早期に発見し生活習慣の改善につなげます。併せて、特定の年齢に到達した人を対象に、胃がんリスク検査を実施します。

また、20～39歳までの国民健康保険加入者を対象とした若年者健康診査を実施し、早い段階から生活習慣病予防に取り組むことで、特定健康診査の受診率向上につなげ、将来的な医療費の削減、医療費の適正化を図ります。

【事業概要】

①特定健康診査・若年者健康診査対象者への受診案内

②特定健康診査（対象者：40歳から74歳）
若年者健康診査（対象者：20歳から39歳）

【健診料】無料
【基本的な健診項目】
・問診、血圧の測定　　・身長、体重、腹囲測定
・血液検査（肝機能検査、血中脂質検査、血糖検査）　・尿検査
【詳細な健診項目】（医師の判断で実施）
・貧血検査　　・心電図　　・血清クレアチニン検査　　・眼底検査
【追加項目】　胃がんリスク検査
・対象者：20・25・30・35・40・45・50・55・60・65・70歳（5歳刻み）
・内容：ピロリ菌抗体検査、ペプシノゲン検査

③健診結果の通知

④特定保健指導

（特定健診受診率・特定保健指導実施率）

	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28
特定健診	特定健診受診率	42.7%	45.4%	46.4%	45.7%	47.5%	47.1%
	県内平均受診率(21市町)	35.5%	38.0%	37.0%	38.2%	38.6%	38.5%
	県内順位(21市町)	8位	9位	8位	7位	6位	7位
保健指導	特定保健指導実施率	48.3%	53.3%	54.5%	76.3%	70.0%	78.9%
	県内平均実施率(21市町)	37.6%	45.2%	48.7%	49.5%	52.5%	53.1%
	県内順位(21市町)	6位	8位	10位	2位	2位	2位

科目	5款	2項	1目	目名称	特定健康診査等事業費	保険健康課（保健センター）

事業計画	前年度まで	今年度	来年度以降
	上記事業概要と同じ ・H26年度から胃がんリスク検査を実施 ・H27年度から30・35歳の節目健康診査を実施 ・H28年度から20～39歳の若年者健康診査を実施	上記事業概要と同じ （特定健診事業第三期）	引き続き実施予定

事業名	【新規】 上の原浄水場・安中配水池耐震化事業				
当初予算額	財源内訳				（単位：千円）
	国費	県費	地方債	その他	一般財源
2億5,908万0		359万2	2億2,000万0		3,548万8
事業期間	平成30年度～平成36年度　（複数年度事業）			総事業費	28億5,360万0

【事業目的】

上の原水系の上の原第１配水池は建設後57年、上の原第２配水池は建設後49年をそれぞれ経過しており、経年劣化が著しく、備えるべき耐震性能を確保できていない状況になっています。また、安中水系の安中配水池も建設後41年経過しており、経年劣化と平成３年に発生した雲仙普賢岳噴火災害の土石流の影響もあって、本体部に多数のクラックが発生しており、備えるべき耐震性能が確保できていない状況にあるため改築・更新を行うものであります。

【事業概要】

既設配水池を運用しながら補修・耐震補強工事が難しいことから、新たな配水池を築造する計画をしています。また、新たな配水池を築造するためのまとまった用地を既設配水池の近傍に確保できないことと、水需給バランスを確保するため各配水池の負担区域を見直したことから、新たな配水池に関連する施設（ポンプ設備更新、水源開発、管路の新設など）を計画しています。

事業内容		
	新規水源整備	2本（上の原第3水源、中木場第3水源）
	浄水場配水池等整備	2箇所（上の原浄水場、安中配水池）
	取水ポンプ整備	2箇所（上の原第1水源、上の原第2水源）
	減圧水槽整備	1箇所（安中減圧水槽）
	導送水管布設等	L≒5,500m

上の原浄水場（昭和35年、昭和44年建設）

安中配水池（昭和52年建設）

科目	1款	1項	1目	目名称	拡張費	水道課
事業計画	前年度まで		今年度			来年度以降
			新規水源　1箇所 取水ポンプ更新　1箇所 導水管布設　L=1,170m			新規水源　1箇所 浄水場新設　2箇所 取水ポンプ更新　1箇所 導送水管布設　L≒4,580m